

## カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF) での留学を終えて

総合診療部 石 崎 裕 子

2002年3月から2003年3月までの1年間、本学歯学部と姉妹校であるカリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部にて海外研修という形で留学してまいりました。受入先の Sally Marshall, G. W. Marshall ご夫妻は今年ご退官された岩久名誉教授と長年の親交があり、これまで旧歯科保存学第一講座（現う蝕学分野）から宇佐美祐一先生（新潟市開業）、岡本明先生（う蝕学分野）、福島正義先生（総合診療部）が留学されました。教授夫妻は新潟にも国際科研の打合せで何回か来訪されており、このような縁があることから、留学にあたっては諸々の環境に恵まれていました。

### 留学先について

カリフォルニア大学は州内に複数のキャンパスを持っています。有名なのは UCLA (ロサンゼルス校) や UC バークレー (バークレー校) ですが、サンフランシスコ校はメディカルセンターとして医、看護、薬、歯のそれぞれの学部および研究施設が密集しています。メインキャンパスはサンフランシスコ市の西のインナーサンセット地区のス

ートラ山の斜面に位置していますが、手狭なことから、今年から新しいミッションベイキャンパスに順次研究施設の移転がはじまりました。さて、私が滞在したのは Preventive and Restorative 講座の Biomaterials and Bioengineering 分野の Marshall 研究グループです。ボスは Marshall 先生御夫妻で、奥様の Sally は2000年の国際歯科学研究学会 (IADR) の会長、夫の Grayson は Academy of Dental Material の元会長でアメリカ歯科医師会雑誌 (JADA) の現編集者としてご活躍です。研究グループのメンバーは国際的で、ドイツ、ポルトガル、イタリア、インド、中国、日本 (私の他にいらっしゃいます) 出身の研究者や日系アメリカ人が集っていました。研究グループのメンバーは歯科医よりも科学者が若く多く、基礎研究が中心です。

### 講座について

講座には Seltzer and Bender's "Dental Pulp" の著者である Goodis 教授 (興地教授は



マーシャル研究グループ：秘書や技官（日系2世3世ですが日本語は話せません）、グラフィックテクニシャン（原稿を渡せばスライドやポスターを作ります）もグループのスタッフです。



ゴールデンゲートパークからの UCSF 遠景：歯学部の建物は右端に位置しますが、小さくて見えません。

分担執筆者の一人です)、Cariology Research の Featherstone 教授、歯学教育の White 教授、そして Sally Marshall 教授、G.W. Marshall 教授ら高名な先生がおられます。たくさんおられる教授のうち Featherstone 教授と Marshall 教授が研究グループを持っていて、実験室や実験装置を共同で使用しています。材料や試料を手配する職員や機器の管理修理を担当する職員もいて、実験室の運営はとても合理的と思いました。講座には研究グループ、臨床教授、事務職員がおりますが、分業が徹底しています。例えば、事務職員・秘書が多くおり、事務的な仕事に教官が関わることは一切ありません。学生のカリキュラムや教官の日程調整等もすべて事務職員が担当しております。また、研究者は診療することはありませんし、臨床実習に携わることもありません。合理的な反面、縦割りによる弊害もあると感じました。私の研究分野は接着材料・手法ですが、臨床に密着した分野なので、診療従事者が研究と教育に携わっている状況の日本がこの分野だけはリードしている要因のひとつを垣間見たような気がしました。

## 歯学部の学生さん

歯学部の学生さんは4年制大学を終えたあと入学してきます。全米から応募があり、合格するのは大変な倍率だということです。歯学部は4年間で、3、4年生が臨床実習を行なっています。4年生の実習を見学したのですが、歯科事情が日本



歯学部2年の学生さんと。向かって左の学生さんはスペイン語が母国語です。

と異なるため実習風景はいろいろと異なっていました。まず、学生診療室に多くの患者さんが来院されています。アメリカでは歯科治療にかかわる費用が大変高額なため(日本とは桁が1つ違います。例えば根管治療は千ドル、つまり十万元以上します。)、半額になる学生診療を目当てに来院される患者さんが多いのです。サンフランシスコは国際色豊かな街ですが、英語を母国語としない患者も多く、歯学部の建物内では毎日「〇〇語を話す学生は受け付けに来て頂戴!」とひっきりなしに放送されていました。もちろん?か国語を話す学生も多いです。さて、週に1日夜間学生診療が行なわれており、日中来院できない患者さんへのサービスにも配慮されていました。指導にあたるのは臨床教授ですが、ボランティアで行なわれているらしく、この夜間診療にあたったときはアンラッキーだとのことでした。指導はフレンドリーで、学生と臨床教授の会話は友人同士のそのようです。これは学生の教官評価がおこなわれていることによるものだと思います。さて、学生さんの診療のペースは半日に1人で本学と同様ですが(ラバーダムをしたままお手洗いに行くために廊下を歩いている患者さんをよく見かけました)、その内容は違っており、指導教官が手を出すことはほとんどありません。指導にあっている教授にお聞きしたところによると、その日の診療ごとに評価をし、教官が手を出した場合は5段階評価の3以下の評価だということです。そのためか本学のように学生さんが教官に依存する傾向がないよ



サマープログラムの発表会：プログラムに参加したテキサス大学の学生さん(左)と指導した大学院生の研究者(右)。ポスターだけでなくスライド発表もありました。

うです。(ちなみに本学の6年生の臨床実習の状況は1または2の評価に相当します。)ネームシールにも Student Dentist と肩書きがあり、学生だけでもプロフェッショナルとしての自覚があるようでした。カリフォルニア州の歯科医師試験には患者さんに対する診療の実技試験もあり、学生さんはそれに向けて技術向上に懸命です。患者診療をしている隣の空きユニットにマネキンを装着して練習する学生さんも見かけられました。診療器具ですが、診療室のユニットにはチェアしかありません。ハンドピースを含めすべて学生の個人持ちものだとのことでした。そのためトレー、ハンドピース、バー等を事前に準備し滅菌に出しておくことが学生一人一人に要求されます。また診療のたびに、道具を入れた各自の移動式の引き出しコンテナを収納ロッカーから出してユニット脇にもってきていました。半透明の引き出しには光照射器、コンポジットレジン、スケーラー等、多くの物が入っていることがうかがえました。薬剤やリーマー等(使い捨てです!)は診療室内の材料窓口で請求して受け取るのですが、これらの費用も学生さんが使用した分を一人当りに計算し、相当額を実習費用として納入するとのことでした。本学もこれから独立行政法人に移行しますが、将来の学生臨床実習はこうなっていくのかしらと思いました。

### 学生さんの夏休みと大学院生

6月下旬から9月下旬まで、学生さんは長い夏休みがあります。この期間にはたくさんの学生さ

んが研究室にやってきます。歯学部に入學するとき卒後の PhD コースを一緒に申し込むと歯学部の学費が免除される制度があるそうで、そういう学生さんはこの時期に研究し、学部内発表会でプレゼンテーションすることになっているようです。また、UCSF ではサマープログラムが実施されていて、他の4年制大学の学生さんが研究グループに約2ヶ月滞在し、研究(研究者のお手伝いをします)と発表会でのプレゼンテーションをします。長い休みではありますが、学生さんは研究をしたり、働いたり(学費を稼ぐ!)と有意義に過ごしているなと思いました。また、研究のお手伝いをしたいというボランティアが年間を通じて何人も研究室に出入りしていました。彼らは歯学部入学を目指している学生さん(まれに高校生もいました)や社会人でした。臨床教授もそうですが、大学は多くのボランティアが集まる場であり、大学のネームバリューを認識させられました。

さて、大学院ですが、大学院生はほとんどが歯学部を終了した人たちではありません。PhD コースに在籍している研究者を大学院生とここでは呼ぶことにしますが、彼らは医学部や歯学部などいろいろな研究室を一定期間でローテーションしたり、講義を受講しにバークレーキャンパスに通ったりしていました。試験もちろんあり、プレゼンテーションの試験もあります。そして一定の試験にパスすると、ひとつの研究室に所属しテーマを決めて研究するということです。PhD コースを終了するにはふつう5年以上かかるとのこと



ボランティア団体「のびる会」で知り合った友人



オークランド球場での野球観戦：イチローの打席

でした。日本の大学院とは大分システムも違い、要求される力量も異なるなと思いました。

## 最後に

大学での学生さんの様子を中心に書かせていただきました。滞在中は日本人渡米者を支援するボランティア団体「のびる会」にも関わったり、そ



研究グループのレイさんと。東京医科歯科大学の留学生として東京に5年間いました。日本語が上手で、向こうでの親友です。

の活動を通して大学以外の友人もでき、有意義に過ごすことができました。このような貴重な機会を与えてくださいました岩久名誉教授、留学を許可していただきました河野前病院長、興地教授、留守中ご迷惑をおかけした福島助教授はじめ総合診療部教官、う蝕学分野のみなさまにあらためてお礼申し上げます。



非常勤の研究者の佐伯さんと。結婚して現地にお住まいで、日本とカリフォルニア両方の歯科医師免許を持っています。